



本日の研究会は、今年度より着任された、国立国語研究所の前川喜久雄先生が、自己紹介を兼ねて、目下取り組まれているCSJ（日本語話し方コーパス）のデータを用いた二つの研究課題（「PNPL」と「声質」）についてお話してくれました。



自発音声とは、対になる朗読音声と併記してみればよくわかるように、自分の頭の中で考えながら話しているときの音声を指します。

Luncheon Linguistics

国際日本学研究院NINJALユニット着任時研究会

「自発音声の分析： 特に発話を領域として生じる現象について」

前川 喜久雄

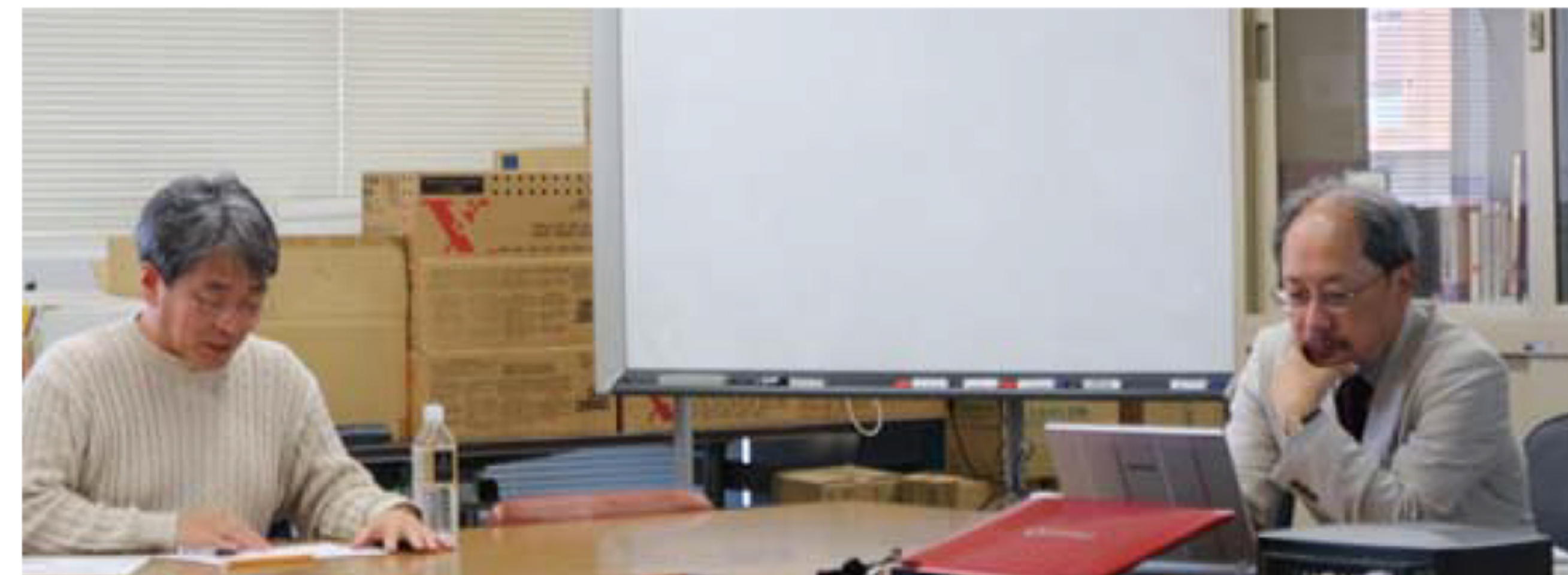
国立国語研究所、本学大学院国際日本学研究院[クロスアポイントメント]

日時…2018年4月26日[木] 12時00分-12時35分
＜今回は木曜日の開催となります＞

会場…語学研究所 [研究講義棟4階419号室]

共 催：国際日本学研究院 & 語学研究所

今年度は、大学院生向けに、「日本語の韻律」というタイトルで、木曜日3限の授業を開設しています。



質疑応答中の、中川先生と前川先生（お二人は、30年来の研究仲間だそうです）



発話をしている際に、話者が、終わりから二つ目の文節の最終部分を高く発音する傾向があるというデータを引きながら（←専門用語を用いずに書いているので、逆にわかりづらいかもかもしれません）、この傾向について、前川先生独自の着眼点を持ちながら現在研究している、というお話でした。

もう一つの「声質」についても、コーパスを用いることにより、初めて導き出される着眼点を紹介してくれました。

大変興味深いお話で、昼時ながら、28名の学生や教員が集まり、熱心に聞いている姿が印象的でした。今後企画予定の講演会が、とても楽しみです。

